

ち か い

私は、名誉にかけて、次の3条の実行をちかいます。

- 1. 神(仏)と国とに誠を尽し“おきて”を守ります。
- 1. いつも、他の人々を助けます。
- 1. からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います。

標 語

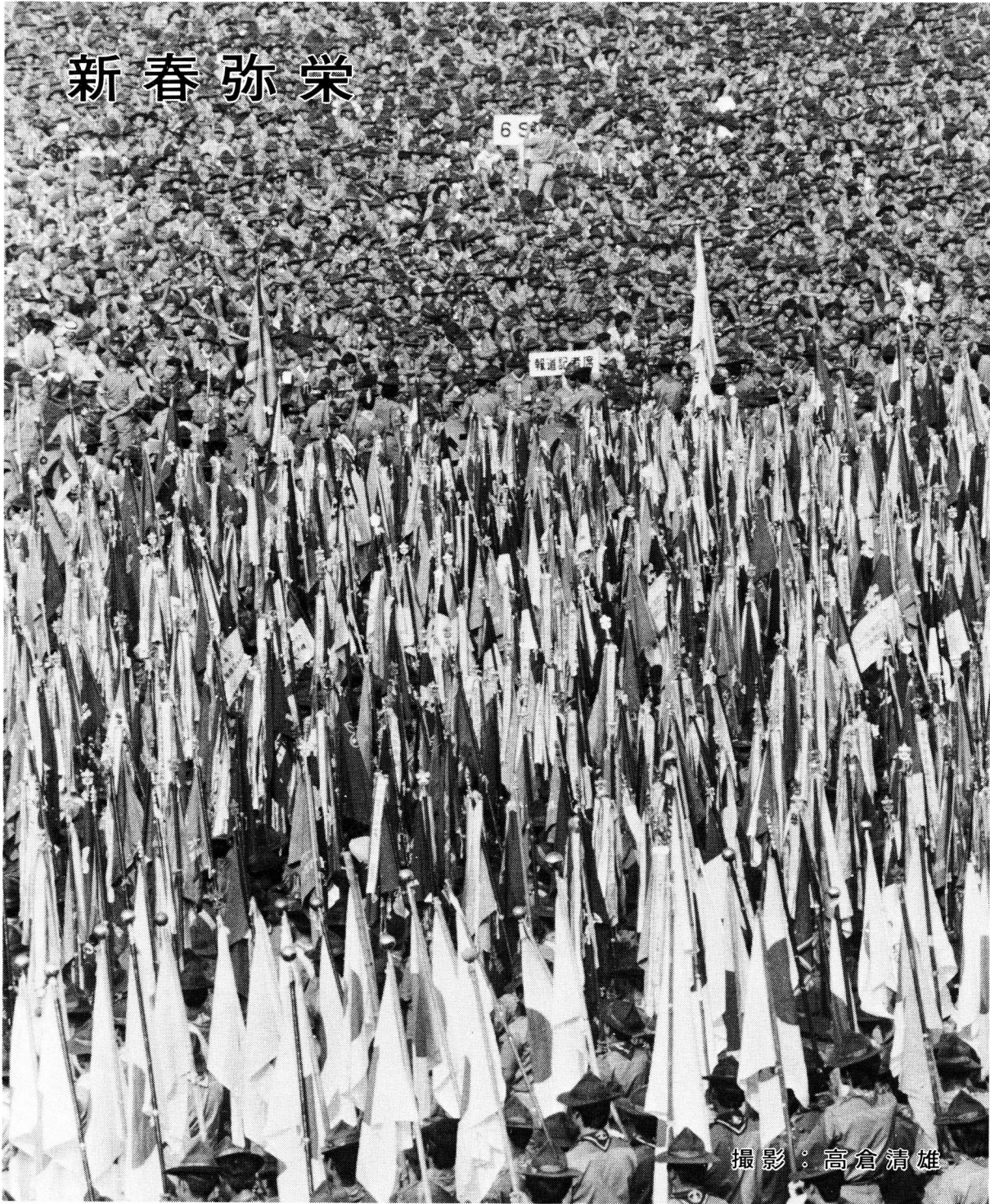
そ な え よ つ ね に
日 日 の 善 行



お き て

- 1. スカウトは誠実である
- 2. スカウトは忠節を尽す
- 3. スカウトは人の力になる
- 4. スカウトは友誼に厚い
- 5. スカウトは礼儀正し
- 6. スカウトは親切である
- 7. スカウトは従順である
- 8. スカウトは快活である
- 9. スカウトは質素である
- 10. スカウトは勇敢である
- 11. スカウトは純潔である
- 12. スカウトはつつしみ深い

新春 弥 栄



撮影：高倉清雄

第2回ボーイスカウト写真コンテスト入賞作品

最優秀賞

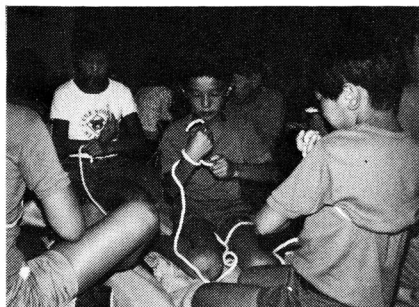
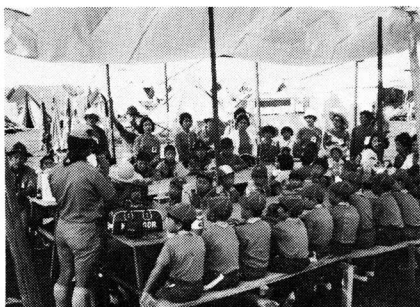


＝成人の部＝



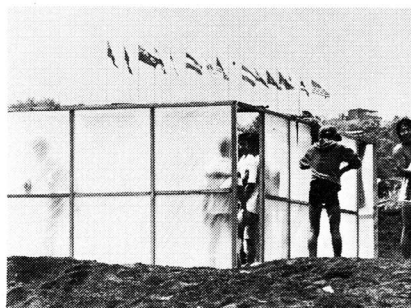
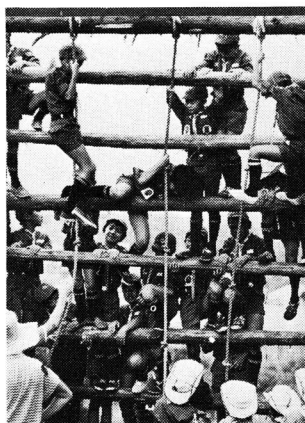
友情の一日 牧野 績 (浜松第4団)

優秀賞



楽しい集会 青木左治 (浜松第7団)

優秀賞



訓練 安田照男 (浜松第14団)

優秀賞



富士登山

石川 裕久
(浜松第24団)

年頭所感

浜松地区コミッショナー 牧野 績

あけましておめでとうございます。

皆様方には、すこやかに、新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年をふりかえってみますと、第7回日本ジャンボリーが御殿場市滝ヶ原で開催され、希望と躍動のテーマのもとに富士山ろくに展開され、嵐をついての設営は一生の思い出となったことでしょう。又11月には浜松地区から浜北が分封し浜北地区が発足したことは、スカウト運動の今後の発展に大いに期待がもたれ大変嬉しいことと思います。

浜松地区は、今や25年の歴史をもつ県下でも有数の地区と云えます。これは、永い年月を経て困難な時を乗り越え努力を重ねてこられた先輩諸氏の築き上げた尊い奉仕の精神のたまものと深く敬意を表するものであります。

スカウティングの原点は、神と自然への感謝と奉仕だと思います。

スカウティングは「やくそく」「ちかい」によって心の大切さを私達に教えています。

今年は各団リーダーとコミュニケートを図りながら、その立場におかれた任務の遂行と技能の練磨を重点に、お互に自己研鑽にはげみたいと思っております。

各団は一つの家族として益々発展され地区の歴史を大切に、だれもが浜松地区を誇りと思える様な地区にするよう皆様方とともにすすめてゆきたいと願っています。

年頭の挨拶

浜松第12団・団委員長 中嶋圭介

新年明けましておめでとうございます。

正月がきますと我々は今年こそはと、それぞれ何か目標を立てますが、一年たって見ると目標はどこえやら、こんな事がお互に多いではありませんでしょうか。最近の青少年の行動は誠に目に余るものがあります。勿論一部の人達とは思いますが、少くとも我々仲間のスカウトには、そんな人は一人もいないと信じております。だからと云って我々にも反省すべき点、多々あるかと思えます。特に私が感ずる事は、この頃では「ありがとう」と「すみません」この言葉を云う人が少くなっている事です。たった二つの言葉が云えないばかりに人から誤解をまねいて、きまづい人生を送っていると思えます。人の好意に感謝する気持ちを大切にすること、それがいかに人間関係をよくするかの、まづ第一ポイントであろうかと思えます。感謝の仕方はいろいろあるでしょうが、率直に「ありがとう」をいおうではありませんか。感謝の表現は礼を厚くして頭を深く垂れる形式ではありません。一言心から「ありがとう」を言えばそれでよいと思えます。簡単な事ですが毎日の生活に「ありがとう」を省略したり、うっかり言い忘れたりする為にどれ程人間関係を悪くしているかわかりません。次に「ごめんなさい」の一言は反省と譲歩であります。ただ一言「ごめんなさい」がすつと

口から出る人は反省と譲歩を知っている人だと思えます。それが出にくい人は自然伏目がちになり、やがてその人と逢うことを恐れ、罪の意識さえ自からに着せてしまうのです。だから折角の人間関係もいつしかこわれて行くのです。「ごめんなさい」は決して降服ではありません。云える人は勇気ある人間ではないでしょうか。「ありがとう」「ごめんなさい」を日常生活会話に心こめていおうではありませんか。よく我々スカウト運動の中で我々は奉仕しているんだと云いながら愚痴をこぼしたり人の悪口を云ったりする事が時々見受けられるものです。折角の奉仕が奉仕ではなくなってしまふんです。それは感謝の気持ちがたらないからだと思えます。感謝の始まり、それは「ありがとう」です。私は今年目標の中に「ありがとう」「ごめんなさい」をどれだけ実行できるかは是非試して見たいと思っています。はたして一年たって見てどうでしょうか。皆さんも一度挑戦してみませんか。さあ1979年の出発です。皆様様のスカウト運動の一層の発展と御多幸をお祈りして挨拶といたします。

弥 栄

希望と躍動の年を迎えて



浜松第7団・団委員長 谷口久雄

希望と躍動の昭和54年新春を迎え心からお喜び申し上げます。

健康で新しい年を迎えられることの素晴らしさを改めて神に感謝致します。

今年こそは、今年こそは、と新年を迎えるたびに年々繰返し、これと言うこともなし得ず、ただいたづらに一人前に年をとるだけで何とも恥ずかしい次第です。

そして又今年こそは、と言う訳ですが……今年は誰れにでもあいさつ、をしてみようと想います。おはよう、こんにちは、さようなら、ありがとう。この位のことならなんとか実行出来そうです。

ここ一年、県でも住み良い地域づくり、心の触れ合い等をテーマにコミュニティーづくりに力を入れ始めたと聞き及びます。快良あいさつが出来る世の中は素晴らしいと想います。昨年御殿場での日本ジャンボリーを見学して若いエネルギーに接し感動しましたが、その折にも「こんにちは」と言う言葉が交わされました。あの広い会場の中で行き交う人々の「こんにちは」のひと言がどんなに近親感を与えたことでしょうか。

その結果、今文通して交流していただいている方が六人もあります。つい先日思いがけずリングを恵送して下さった長野県のリーダー、民芸品を送って下さった秋田のリーダー等もあり各地にお友達が出来た訳です。

人間が生活してゆくのに、あいさつは不可欠のものと思いますが、その大事なあいさつが満足に出来ない世の中です。

せめてボーイスカウトに関係している者だけでも「こんにちは」「ありがとう」の輪を拡げて行こうではありませんか。

せつかく神が創造して下さった口と言葉があるのだから。

新年を迎えて

浜松第25団・団委員長 内山 達三

明けまして、おめでとうございます。

我が第25団は館山寺を中心とした旧庄内村に、昨年四月呱呱の声を上げたばかり。地区で最も若い団であります。発隊にあたりましては、先輩の皆様方、友隊の方々、育成会の皆様、産婆さんの役割を果たして下さった浜松館山寺ライオンズクラブの皆様方に心からの感謝を捧げるものであります。有難うございました。誠に「暗中模索」と云う言葉がぴったりの我が団の中で、団委員の皆様、隊長、副長、DMの方々が、今一生懸命にボーイスカウトの精神を学び、地域社会の子供達の育成に励んでいる姿に接するとき、まことに頭の下がる思いで一杯であります。

「聞くたびに めずらしければ ほととぎす

いつも初音の心地こそすれ、

毎年必ずまわって来る新年ですが、お正月がやって来ると、今年こそはと、進歩向上の意気に燃え、人に喜びを与え、希望を与え、計画を与えてくれます。CS隊から出発した我が団も、今年はBS隊の発隊を願っています。将来の発展を期し、今一段の雄飛を企図するものでございます。社会の宝、日本の息子たちのために、今年も頑張っていきたいと思っております。どうぞ、よちよち歩きの第25団に、今年もよろしく激励、御支援、御指導を賜りますよう切にお願い申し上げます。

年頭所感

浜松第19団々委員長 鈴木 護

昨年12月に当団10周年記念式典と諸行事を行なったが、当初スカウト27名から10年の歳月のなかで、現在各隊合わせて114名と組織も拡大し、又着実にスカウト活動推進のために奉仕いただきました諸関係者の皆さんに、改めて深く感謝するものがあります。

いま多くのスカウトたちの出会いのなかで「文明が進むほど、子どもの生活力は衰退する」といわれていることを思い出す。スカウトたちのとりまく生活はどうだろうか。「遊び」一つをみても、太陽のもとでの遊びは極度に少くなり、室内での限られた遊びしか出来なくなっている様に見受けられるのは、私だけではないと思う。

色々な意味で、子どもたちは「間を失っている」ともいわれ、人間性を養う三要素の一つ「時間」二つ「仲間」三つ「空間」が必要と学識グループも指唆している。

考えて見れば、今は小さい頃から集団の遊びのたのしさよりも、一人遊びのたのしさを覚え、又遊びが集団から少人数に変わり、集団でも「異年令集団」から「同年令集団」さらに「学級集団」へと変化していることに注目したい。

スカウト活動の中で、各々が新しいものの発見・創意工夫が生まれるすばらしさ、物事を集団で解決していくことの大切さをあらためて再認識した。今後もスカウト精神にしたがい、最善をつくし当団の発展に努力したい。

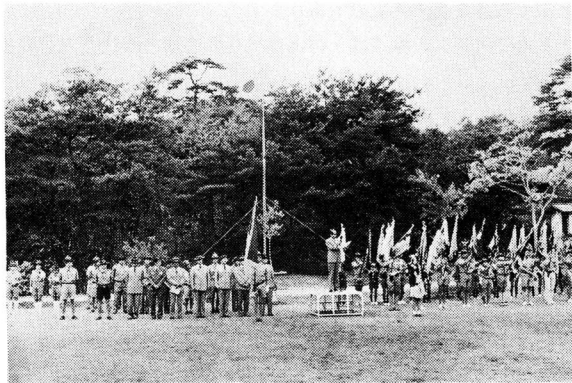
昭和53年度 ボーイスカウト・ガールスカウト 静岡県（西部会場）大会

と き 昭和53年11月12日

と ころ 静岡県立森林公園

浜松地区コミッショナー 牧野 績

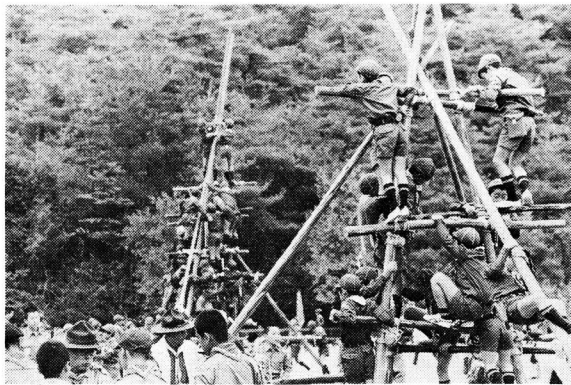
心配していた天候も何んとかもちなおり、11月12日県西部のスカウト及び関係者約3,000人が、貸切りバスや、電車・バスを利用して会場にあてられた県立森林公園スポーツ広場集りに、午前9時40分には会場狭しとスカウトでうまった。午前10時、浜松第12団のかなでるファンファレの吹奏により、開会式の幕が開かれ、国旗掲揚、国歌斉唱につづいてBS県連稲森理事長のあいさつ、熊村天竜市長、鈴木教育長の来賓の祝辞をいただいた後、浜松市八幡宮からの“ちから餅”の贈呈があり、浜松地区新井副コミからスカウトに手渡され、大会に花をそえた。



スカウト宣言、全員による“そなえよつねに”の合唱がスポーツ広場の周囲の山にこだまし開式のセレモニーが終った。

第二部とし、スカウト行事が場内場外に別れ実施され、オリエンテーリング、ウォークラリー、各地区で用意したゲームコーナー、グリーンアドベンチャー、フィールドアスレチック、フリスビーゴルフと多彩な行事にスカウト達が参加し、他地区スカウトとの交流を深め有意義な一日をすごした。

14時10分から閉会式が行なわれ、大会参加授をいただき、各隊旗につけ14時30分それぞれ会場をあとにした。

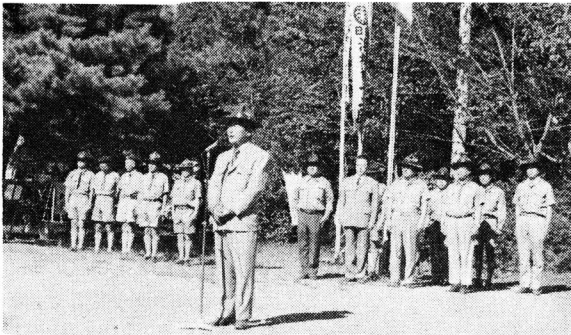


浜松第12団15周年に思う

カブ隊長 宮沢 広士

昭和38年の11月3日に我が12団は7団より分離独立して以来15年が経過した。毎年11月3日の文化の日を期して何周年かを迎えて来た。そして15回目の記念日を昭和53年11月3日に盛大に挙行した。この日は毎年晴天で雨だったのは僅か1回だけであった。

12団はCS・BS・SS・RSと完全な団として地区の中でも充実した団に成長したのは活発な団委員会の活動の結果であると思っている。はやくDMを定着させお母さん方がその気になって活躍することが一つの法則として定着しその結果、隊と団に愛着を感じるようになって何周年の記念日だからと言って団役員がかけずり廻らなくても組や班の両親に主たる筋骨だけを通知しておけば計画通りに事が運ぶのでいつもその盛り沢山の行事を見て他団の方々からいろいろ質問をされるけれども皆さんで盛り上げて貰えるので役員だからと言って大変だと思える程のことは何もないし全て手作りで看板もボーイスカウトとリーダーの作業で出来上って仕舞うし実に有難いことだと思っている。手芸品などのコーナーもDMを中心としたお母さん方の自発的な行事でいつも団の予算を上廻る収入があるので記念式典を行うことによって団は収益を挙げることになる。行事をやれば一般的には予算以上に支出があるのが普通なのに返ってもうかる結果になるのが我が団で実に楽しさの中で収益を挙げさせていただけるなどこんな素晴らしいことはないと思っている。



浜松第19団 結成10周年記念式

副団委員長 野中 豊治

12月17日(日) 富塚幼稚園において、結成10周年記念式を行いました。

当19団は昭和43年富塚幼稚園山口洗氏を中心となり、浜松地区副委員長宮沢広士氏の数回にわたる指導助言を受け、昭和43年9月1日カブ隊員27名で発足いたしました。

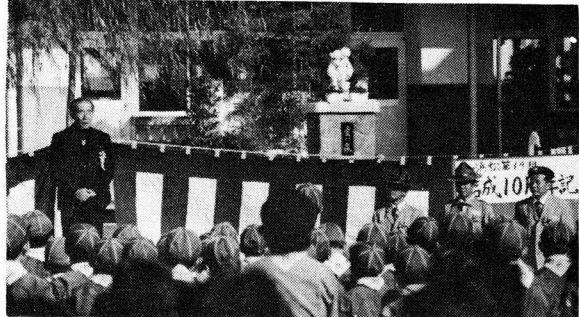
以来、昭和44年にはボーイ隊発隊、昭和48年にはシニア班、50年にシニア隊を発隊させ、現在ではスカウト数約120名を数えるまでになりました。

当日の第1部式典は午前9時より、浜松地区・西部小地区からの来賓の方々及び友隊のスカウト諸君を迎え、渥美副団委員長の開会の辞で始まり、鈴木真一育成会長の挨拶、鈴木護団委員長の10周年のあゆみの報告、功労者に対する感謝状の贈呈、来賓の方々の祝辞とメッセージ、最後に記念品の配布をもって式を終わりました。

引き続き第2部クリスマス会を行い歌やゲーム、寸劇、プレゼント交換、父兄たちの奉仕によるもちつき等、楽しいひとときを過ごしました。

今後、スカウト・指導者・育成会員ともども心を合わせ、団発展のためますます努力しなくてはならないと心に誓い合い一日を終わりました。

当団のためご指導、ご支援くださいました関係各位に紙上を通じて厚くお礼申し上げます。



ジャンボリー・オン・ジ・エア

浜松第6団SS隊長 中島 繁光

強風の中で、タワーとアンテナの設営が終った。薄ぐらくなつた中で、運用天幕の設営を始める。金魚鉢のように、ふくらんだテントをスカウトと一緒にさえつながら、これもスカウティングだと感じた。

そして、昭和53年10月21日(日)午後8時、簡単な夕食をやつとすませて、全員が集まる。運用についての諸注意、特にスカウト局としての自覚を持って礼儀正しい運用をしてほしいとのリーダーの希望を伝える。

一晩中、運用テントは、スカウト達に占領されていた。

今回は特に、海外のスカウト局との交信が多かったように思う。つたない英語で、自己紹介や、隊の事などを伝える。そして、きっと最後は「Have a Good Scouting!」であり、「サヨナラ」であった。

午後3時に撤収を終り、閉会式を行う。

スカウト達の感想文を集める。「来年も是非参加したい」「もっと英会話を覚えなくては」「今年は、とても楽しかった」「こんなに多くの局と交信できてうれしかった」……。

免許証だけのスカウトが多い浜松地区で年1回の野外での運用が、明日のスカウティングの一端になればと思う。

最後に、すばらしい晴天に感謝し、また、多くのリーダー、団委員の皆様に、お礼をのべ、来年もまたよろしくとお願いを致します。



デンマザー紹介

浜松第7団のデンマザー

CS隊長 北川良雄

浜松第7団は5人のデンマザーで編成され、全員が一致団結してDMとしての誇りのなかに隊の活動に参加しています。

第7団はDMの活動にも伝統があり、特にCS隊にとって必要な母のやさしさとしての包容力に溶けこんだごやかな心に育まれて、活発に運営されています。又DMに都合の悪いときは、ただちにアシスタントのDMが交代してその運営にあたり、そのチーム・ワークのよさも伝統の名にそぐわぬものとなっています。DMさん達は常に新しいアイデアと知識の吸収に務めており、隊員達の心身共に健全な成長を願い、そのために努力しています。

1組の井上かよ子さん 昨年は育成会の副会長を担当し、今年ではDMで活躍していただいています。大変忙しい人ですが、気持ちよくDMを引受けてくれ、ものごとを冷静に判断して、まさにマザーとして真価を発揮しています。

2組の松下ふく代さん やる気十分のDMです。活発な言動で、男まさりの手腕がまた見事、ものごとをてきぱきとかたづけますが、半面やさしいお母さんの心をのぞかせて、子供達に慕われています。



3組の福元和子さん 明るくて陽気でグループの太陽といった存在です。又大変なスポーツ・ウーマンで隊の活動に欠かせない人で、行事等で企画を担当させると団体のなかに自然になごやかさが生まれ、その持ち味を十分生かしながら頑張っています。

4組の中條民子さん 子供さんの兄弟がCS隊員となっており、家庭にそしてCSにお母さんの務めを立派に果しています。責任感が強く、何事も中途半端では満足せず、正しい信念のもとにお母さんとして明るく、子供達を包んでくれます。

5組の高木雅子さん もの静かななかに強い闘志を秘めて、女性らしいやわらかな滋愛の心で、子供達に接し、団の行事などを積極的に支援して、やさしく子供達を導いてくれます。

浜松第12団DM

CS隊長 宮沢広士

1組のDM田中満里子さん 我団最美人中の一人であり均整のとれた体格の持主。男の子に恵まれ只今兄弟でCS隊員である。お兄ちゃんが入隊した時からの経験を生じて今では団の中では古株のお母さんである。段々自信をつけて来てますます張切っている。



2組は御室隆子さん 何でもこなすスポーツ・ウーマン。大張切りで隊のお母さん達の先頭に立っている。野外でやることは何でも好き。ハイキングなど山歩きは率先してやってのける。つつい彼女のご主人も引きづりこまれてしまい、今では団の野営行事委員の一人として団にとってなくてはならない人になってしまった。妻と云う字には勝てませんナ。

3組のDM白石祥子さん 新潟県生まれの美人。ご主人は医者様で絵が得意、事ある毎にバックスクリーンなどに絵を描いて貰い大いに助かっている。2人の男の子が隊員で張切っている。プロポーションは抜群なのに団のパレーチームの一員で、もっと美しくなりたいと思っているのかしら。

4組は阿部美子さん 此の人も兄弟で2人隊員になっている子宝に恵まれた良いママ。まだ下にかわいい坊やがいるので、とうぶんCS隊から抜けられそうもない。子育てが終わったらCS隊のリーダーになってもらいたいと思っているのは隊長一人だけではない。

5組のDM堀尾文代さん 一寸病身なのでご主人がいつも代ってDM役をつとめて下さる。夫婦和合のお手本みたい。DDとDMを一人で引受けて下さって野外で活動する時など、とても助かる。坊やが今度上進組なのでCS隊をぬけられると困るナーと思っている。

6組の大塚八枝子さん 12団きってのパレーのベテラン。かつての河西さんの様な存在で、この人がいないとパレーチームの実力は半減する。堂々たる体格で力も充分。この人に打ちこまれたら受ける前に逃げ出してしまおう。GSのリーダーもやっている。県大会の時、台上にあがって挨拶をされた。これを知っていたご主人は心の底から惚れ直したという話。これホント。

浜松第19団のデンマザー

19団では発団以来大勢の方々にスカウト活動について理解していただくと考え交代でデンマザーをお願いしています。

次に紹介するのは各組の組長のおかあさん方です。この方々はデンマザー2回・3回の経験者であり、各組当番のデンマザーさんを助けているベテランぞろいです。

(わたしのひとこと)

○3人のむすこに追いかけられ、ガサツになるばかり。趣味は読書と山野歩きです。

1隊1組 山下 芳子

○子どもが大好きで、子どもと話していると楽しいです。

1隊2組 佐々木由子

○2人の子どもがお世話になって早や5年になりました。これからは子どもたちと成長していきたいと思ひます。

1隊3組 斉藤 今子

○なんの特技もない私ですが、皆様のご指導をいただき、2年間子どもともどもお世話になりました。

1隊4組 村上恵美子

○男の子と遊ぶ事が昔から大好きです。バレーボールで体力を作っています。

1隊5組 菌田 純子

○とても忙しい毎日ですが、カブスカウト活動は子どもの多面的な成長の場なので、なるべく都合をつけて参加しています。趣味は手芸と音楽です。

1隊6組 高山美佐子

○常に明るく礼儀正しい子どもに育ててほしいと思っています。

2隊1組 高木 秀子

○入隊して3年、むがむちゅうでした。皆さんにささえられてどうかここまでできました。これからもがんばっていききたいと思ひます。

2隊2組 辻村 崇子

○5年生になる子どもも元気発らつとスカウト活動に参加しています。私も子どもから手が離れ、これから自分自身の人生を有意義にすごしたいと意欲を燃やしています。

2隊3組 西山美智子

○趣味はバレーボールです。これからも子どもたちと1時間でもひまを見つけてボールの投げあひをしたいと考えています。

2隊4組 松尾ハツコ

○明るく素直な子どもに育てられるよう願っています。

2隊5組 土手 利子

○2人の子どもがお世話になっています。スカウトらしくたくましく育ててほしいと思っています。趣味は手芸が好きで、特に手編で小物などを作っています。

2隊6組 石原かよ子

浜松第24団デンマザー

1組 松本たかさん おとなしいDMですが、物事をてきぱきとやってくれる良く気の付くお母さんです。

2組 青野保子さん やさしい心の持主。子供達には冒険心を願ひ、雄大な自然に負けない子供に育てと願うお母さん。

3組 鈴木千歳さん・大橋由江さん とても熱心で、大橋さん(次年度副長候補)と共に一年間DMを引き受けて下さり隊より感謝しております。

4組 石川浩美さん スポーツ万能で53年西部小地区バレー大会で24団の優勝に貢献した一人。

5組 和田美祢子さん 御主人も団委員、家族で非常に熱心な、良く気がつき、24団唯一の双子のスカウトを持つお母さん。

6組 村松鶴栄さん 車の運転は御主人以上。子供の躰、道徳を厳しく見つめるスカウト一家のお母さん。



〔後列〕原田、小沢、田口、木下、新藤、大橋
〔前列〕青野、村松、和田、松本



19団1隊 (上)菌田、村上、斉藤 (下)高山、山下、佐々木



19団2隊 (上)松尾、辻村 (下)高木、土手、西山

細江第1団デンマザー

細江第1団のおかあさんたちは明朗活発。時には子どもたちよりもハッスルすることもある。さて、デンマザーたちの横顔はどうだろう。

石原美紀子DM 子供の幸せは母親の幸せ……ということばがぴったりのおかあさん。だって今一番やりたいことは、子供が成長したら考えると答えるほどなのですから……。趣味は手芸、編物。

内山那枝DM 自家営業を手伝いながら、4才の子どもをひきつけてカブに参加したり、仕事の合い間に趣味をいかすなど自分なりに生活をエンジョイする、切り盛り上手のおかあさん。趣味はお茶のけいこ、映画。

長田育子DM 教師という職業を一方でもちながら、自分の子どもは子どもで教育するという姿勢が印象的。将来はボランティアとして働きたいというおかあさん。趣味はレコード鑑賞。

荻原洋子DM 好きな本も読めないが自分の仕事に生きがいをもって働き続けたいというとてもバイタリティーのあるおかあさん。趣味は読書。

加茂静子DM 子どもたちをリードしていく事はむづかしいけれど楽しいという貴重な存在。子どもがカブを経験する中で、自分もいっしょに成長したいと願うおかあさん。趣味はスポーツ。

菅野勢子DM 子どもは学校で得られないものをカブに期待し、自分は時間があれば編物、洋ラン作りをしたいというおかあさん。趣味は編物。

寺田つたえDM 親子の会話を大切にしたい家庭を理想とし、カブ活動はそれに一步でも近づけるための基本的な基礎作りを……と願っているおかあさん。趣味は編物。

藤原静子DM 子どもも、母親自身もいろいろな事を経験する中でお互いに楽しんだり学んだりできるような親子のつながりを大切にしたいというおかあさん。趣味は音楽を聞く事。

松田八江子DM 夏の空のように、たいへんカラッとしたり、明るい性格の持ち主。子どもに対しては、父親とともに厳しい教育をと願うおかあさん。趣味は読書。

杉浦光恵DM 常に勉強する態度を忘れてはならないと、いつも前向きにものごとを考え、行動するおかあさん。スポーツもやり、反面編物も好きという。趣味はやはりスポーツ、編物。



前列 加松藤 茂田原 後列 寺菅杉石長荻内 田野浦原田原山

引佐第2団デンマザー

引佐第2団DMのご紹介をいたします。我が隊が発隊して今年で2年目となります。まだ充分な隊活動とはいえませんが、DMさん達が一生懸命に協力して下さるので大変に心強く助かります。何といても組集会の主役はDMさんです。隊ではテーマ毎に各組の当番DMをきめていただき、年間を通して一回は当番を受持っているいただいております。このシステムが定着化してきますと、組集會に厚みが加わって来ると思います。

伊藤 操さん 団の健康安全委員としても活躍中の看護婦さん。子供の健康管理には特に配慮され安心してまかせられる人です。

池田敬子さん すらっとして背の高いお母さん。指導力抜群で子供達にとけこんで組の中の良きアドバイザーです。

中治悦子さん 子供が「うさぎ」と「しか」さんです。何事もテキパキと処理し面倒見の良いことは真似が出来ない。

清水みよ子さん・金原千枝さん ご両人とも発隊以来のDMさんで積極的に活動に参加して下さっています。両者のコンビぶりも2年目でピッタリ。



[後列] 安間 内山 中川
[前列] 池田 武田 金原

浜松第25団デンマザー お母さんは全員デンマザー

CS隊副長 中村隆則

我が隊のDMはリーダー達と同様、目下ボーイスカウト活動について勉強中のところと申しますのは、昨年4月に発隊したばかりの我が団は、見るもの、聞くもの、総てが新しいこと、未知のことばかりだからです。ともかく、これまで手探りで歩いて来ました。DM活動は、全員が先ず経験することが必要だとの考えで、毎月交替で始めました。初めての組集會でのタコ作りには、スカウト達よりデンマザーの方が一生懸命でした。カブ隊が出来るまでは、自分の子供にしか目を向けなかったお母さん達が、今は他の子供にも我が子同様にほめ、又叱り、巾広い視野にたつて積極的に活動に励んでいます。そして我が隊のデンマザーは、今懸命に友隊の先輩達に追いつこうとはりきっています。どうぞよろしく。

浜松第4団デンマザー

CS隊長 松井伸篤

我が4団のDMはチームワークの良さで頑張っています。スカウトの母親全員にDMの経験を積んでもらおうと思い3カ月交代にしましたが、熱心な人が多く、現在5名の副長のうち2名がDM出身であり、団に奉仕しています。

自己紹介

鈴木一枝さん 体の丈夫なことだけがとりえの私ですが、すなおな子供たちが巣立ちますよう役立ちたいと願っています。

笠原美栄子さん 息子が入隊して2年目。2回目のDMです。子供達の笑顔に引っぱられて行く3カ月ですが、一緒に頑張っていきたいと思っています。

荒木雅子さん 子供をカブ隊に入れるまでは家の中にこもりがちだった私ですが、入隊してからは、子供ともども行事に参加するようになりました。今年も子供達と一緒に遊びたいと思っています。

増尾きみ子さん ランの花を咲かせるのが好きです。この花は手をかけ過ぎても、足りなくても、良く咲かない。DM活動も一緒に、やさしく、また厳しく接したい。

星野聖子さん 「いつも元気!」「さようなら」フック!強力なDCに助けられても、組集会のたびにヒヤヒヤ、ドキドキのDMです。これからもファイト、ファイトでやっていきます。

小池栄子さん 日本全国旅してみたいと乙女のような……いえ現実には、家事と仕事に追いまわされて、おまけにデンマの夢ばかり。



後列左より 笠原、荒木、鈴木
前列左より 星野、小池、増尾

浜松第11団のデンマザー

我が11団のDMは、主にくまスカウトのお母さん達に、半年間づつお願いしています。みんな子供達に負けないくらいの若

さと、明るさの持ち主で、楽しい組集会の雰囲気を作ってくれています。子供達を過保護にしないよう、又、自主性を伸ばすように、いつも心がけていてくれます。



1組 和久田しげ子さん

静かで、無口な人ですが、行動力があり、子供達1人1人に細かく気を配って、熱心に指導してくれます。事務的な仕事もきちんと手早く処理し、きちょうめんな性格のDMさんです。

2組 鈴木 育子さん

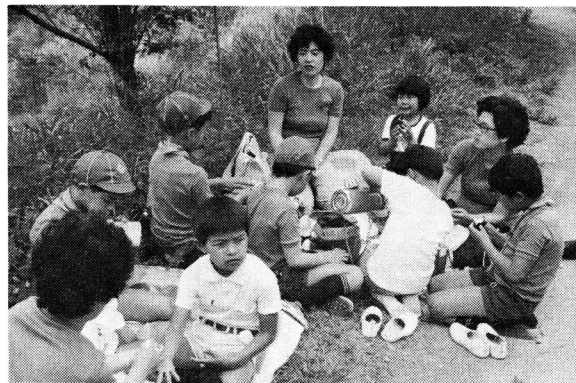
目がねの奥の目がいつもやさしいDMさん。ぐずぐずしているのが大きらいな人です。「すぐ話にのってくれるから楽しい」と組の子供達は言います。2才の娘さんを日曜日は御主人にあずけて、カブの為に張り切っています。

3組 依田 静子さん

3人の男の子のお母さんで、子供達の扱いがとても上手。少しぐらいの事にはあわてず、頼りがいのある、おおらかな人です。ボーイスカウトに進んだ長男の時からベテランDMさん。「子供達にやる気を起させなくては」と、いつも考えているそうです。

4組 中村 照枝さん

いつもニコニコと、ほがらかな、明るいDMさん。初めてのDMですが、やる気充分という感じ。ハイキングの時などは、健康と美容の為に、と子供達の先頭? になって張り切っています。組のチームワークもとても良いです。



謹賀新年

浜松地区協議会長 吉沢純道	浜松地区副委員長 内田嘉一	浜松地区副委員長 市川重雄
浜松地区委員長 内田時世	浜松地区副委員長 宮沢広士	県連副コミッショナー 三輪悦爾
浜松地区コミッショナー 牧野績	浜松第25団 C C 団 副 團 育 S S " " " 委 團 育 " 副 隊 " " " 員 團 成 長 長 員 長 長 成 会 中 德 新 油 新 桔 疋 舘 尾 内 倉 新 村 田 村 井 村 日 川 田 田 川 山 田 佐 村 隆 芳 清 幹 出 幸 秀 孝 安 達 一 秋 則 郎 孝 宏 夫 一 進 治 道 雄 三 郎 賀	浜松第1団 R S B C C 團 團 育 S S S " " " S S 團 團 成 副 隊 副 隊 副 隊 " " " 副 隊 委 員 會 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 柴 渡 増 川 木 河 河 生 鈴 広 天 井 岡 吉 内 田 辺 尾 上 村 原 合 倉 木 野 ノ 口 同 沢 田 年 忠 文 憲 朱 美 小 益 智 一 正 嘉 薫 啓 雄 雄 弘 敏 実 子 孔 枝 子 郎 純 一
浜松地区事務長 柴田薫		
浜松第20団 団委員・リーダー 一同	可美第1団 S B C 副 團 副 育 S S S 隊 委 員 成 副 隊 副 隊 副 隊 " " " 員 會 長 長 長 長 長 長 長 長 長 島 良 中 太 山 伊 友 稲 鈴 山 中 李 太 知 村 田 本 藤 田 垣 木 中 村 屋 田 英 三 俊 導 由 文 則 晴 洋 道 禎 淺 男 夫 晴 進 子 二 哉 旺 雄 一 男 一	浜松第14団 
浜松第21団 迎春弥栄 団委員・リーダー 一同	浜松第18団 育 成 会 長 城 内 保 団 委 員 長 伊 熊 正 治 団 委 員 一 同 R S 隊 長 福 世 正 志 S S 隊 長 } B S 1 隊 長 伊 熊 有 祐 " 2 " 植 田 幾 雄 C S 隊 福 田 茂 雄	浜松第10団  新春弥栄 団委員・リーダー 一同
浜松第23団 B S 年 少 隊 発 隊 を め ざ し て 邁 進 し よ う	浜松第19団 S B B C C C C 健 進 指 組 財 副 團 育 " 副 隊 2 1 2 1 康 營 導 織 政 " 委 成 隊 長 隊 副 副 隊 全 行 步 者 拉 擴 委 員 會 長 補 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 庄 影 八 八 古 野 小 舟 藤 林 山 栗 野 鈴 鈴 司 山 木 橋 中 沢 越 田 口 倉 美 中 木 木 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 春 訓 良 忠 重 登 忠 恒 稔 洸 祐 俊 豊 真 雄 之 久 夫 子 美 登 忠 恒 稔 洸 三 敏 策 治 護 一	浜松第6団 新春弥栄

*** スカウトコーナー ***

日本ジャンボリー

浜松第4団カブ隊 宮崎正成

ぼくは8月6日に、初めて日本ジャンボリーを見学に行きました。会場につくと、そこはもう何万人もの人が集まっていた。

ぼくは、世界ジャンボリーの映画を見たことがあるから、だいたい日本ジャンボリーの予想はついていました。けれど、いざ行ってみると、それは、予想以上に人が多くてびっくりしました。日本各県のスカウトたちがこんなにいるとはおどろきました。

フィリピン人や中華民国の人のおどりを見ました。とてもきれいでした。

暗くなるとかたに夜光テープをはりました。そしてスカウトのやるおどりを2つほど見ました。日本ジャンボリーがこんなににぎやかだから、世界ジャンボリーはどんなのだろうと見たくなりました。ぼくもボーイになったらぜひジャンボリーにさんかしたいと思います。



やまめ荘のキャンプ

浜松第4団カブ隊6組 星野 誠

「ヒエーこわいなー。」「隊長、あんな話するからねられないよ。」

キャンプファイヤーの後、真暗な運動場の真中でたくさん怪談を聞いたので、シュラフにもぐってもなかなか寝つかれません。おまけに組長がジャンケンで負けてしまったので、今晚ぼくたちのねる所は、おはかの前の、ダダッピロクテ、ポロッチイ家です。

「3番目に来た組本館へもどれ」とデンチーフがかけこんで来た時、ぼくたちは生き返ったように飛び上がってよろこびました。シュラフをかかえて本館へ飛びこんだとたん、「コラ、静かにしなさい」と、リーダーの声「ハイ」と、一応返事はしたけれど、本館へ来たよろこびでおこられたのなんかなんのその。ベチャクチャベチャクチャ、ワーワーキャーキャー。「隊長が来たぞ」「ワッ、ギュッ来たか」こんなことをしているう

ちに、1時になってしまいました。

ぼくは今まで、1人でよそにとまった事はほとんどありませんでしたが、キャンプに行ってベッドの上でなくても、家族といっしょでなくても、シュラフ1つあればねられる事を身体で覚えました。

班長になってみて

BS浜松第4団 島 一道

3月に行われた班長訓練野営に参加して「班長は、隊及び班活動を通じて、その班員を指導する」という班長の任務を、教えられた。そしてぼくは教えられたことを、班員の指導にむけようと思った。

指導というのは、班をまとめたり、班員の向上のためにも大切だが、それも班員が活動に参加しなければできないのでは、と考えて連絡網をつくった。連絡する順番を決め、責任をもって次の人へ伝え、最後の人はぼくの所へもどすように約束した7時にこちらから伝言を出して、十時になってももどって来ないので、終りの人からさかのぼって確認したら途中で止まっていた事が何度もあった。これではいけないと思い、順番をかえてくり返しくり返し徹底させた。班員のあつまりがよくなったので、連絡網をつくってよかったと思っている。

連絡網の活用により、班集会を多く開くことができた。その会の中で、班長として自分の知っていることを教えたつもりだ応急手当を教えて、教カ月たって聞いてみたら、その人なりの答えがかえってきたので、ぼくが教えたことを理解してくれたことがわかった。

班長になって、班をまとめ、班員を指導することのむずかしさをつくづく感じた。あと残り少ない任期だけれども、班や隊の活動が活発になるように努力していこうと思っている。

クリスマス会を主催して

BS浜松4団ビーバー班 杉石達也

12月23日に BS浜松4団のクリスマス会が行なわれた。今回のクリスマス会は、堀、島、谷、僕の班長4人で計画し実行するよにとのことで1カ月前から計画を始めた。かざり付け会の進行、司会、配るお菓子のこと等を、何度も話し合った。

始めは班長だけで勝手に計画できると言うことでうれいと思っていたけど、クリスマス会の日が近づくにつれだんだん気持ち重くなってきた。

いよいよクリスマス会の当日がやって来た。その日は2時からかざり付けを始めた。5時に会が始まった。25人も人が集まって、司会を堀君がやり、島君が開会の言葉をして、歌やゲームが始まった。各班からのスタンツや歌の出し物や、班長の作った班対抗のゲームなどをした。みんな楽しんでくれた。

今回のことで、僕は一つの事を計画し、それをやりとげたことのほこりとよろこびを知りました。

今回の会は僕にとって、とてもプラスになったと思いました

クリスマス会

浜松第7団1組くま 吉村 恭敏

12月23日の夜、団のクリスマス会が行なわれた。場所は住吉青少年の家です。

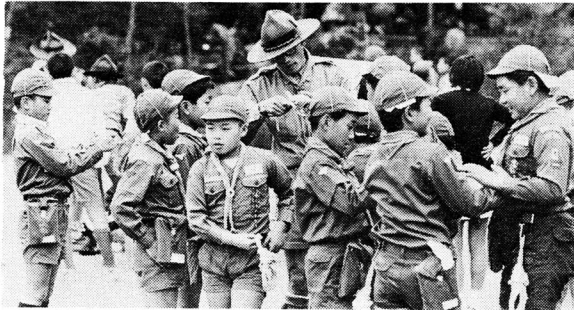
カブ隊は1泊2日のとまりなので、3時に青少年の家に集合し、係の人から青少年の家のお話を聞き、部屋割りをし、僕達1組は井上君と八木君が欠席なので、2組と同じ部屋になりました。

夕食を食べたあと、第1研修室に集まり、ローソクに火をともし、団委員長のあいさつがあり、カブ隊の各組、ボーイ隊の各班、お母さん方、各リーダーの出しものが、いろいろ行なわれ僕達1組も二曲歌を歌った。最後にケーキと紅茶が出て、プレゼント交かんをして終わりました。とても楽しいクリスマス会でした。それから部屋にもどり、組長はリーダー室に集まり、一日の反省をして、布団をひいて消灯の時間になりました。

皆んながしゃべっているの、なかなかぬれなかつたけれど、本を読んでいたら、いつのまにか眠ってしまった。

翌朝6時半起床、朝のつどいを行ない、マラソンをした。これですっかり眠気がふっとんだ。そして朝食と清掃が終わり、自由時間のあと、ワラざいくで馬を作り、昼食を食べ、服装と部屋の点検があり、仲良しの輪をやり、かいさんしました。

とても楽しい2日間でした。



今年一年の反省

浜松第7団ボーイ隊コンドル班長 和田 義人

今年も後わずかで終わる。今年一年を振り返ってみると、特に行事が多かった年ではないだろうかと感じる。その代表的なものとして第7回日本ジャンボリーがあった。クリスマス会や、スキーもあった。しかし、そんなことよりも班長としての役目や班集會のことについて、不安に導びき、多かったと感じさせたのだろう。

1月、今年こそは進級するぞと誓い、2月、寒さも忘れて遊んだスキー、4月、上進者並びに班編成、そしてすぐ班長としての第一歩の班集會を開いた。8月、喜怒哀楽の日本ジャンボリー、その後は進級のことばかりやっていた。今、思うと多いばかりではなく、以外と充実していたのではないかと思えてくる。来年は3年。だからスカウト活動に参加する回数が減ってしまう。しかし、できるだけ参加しようと思う。〔53年暮記〕

今年一年間の反省

浜松第7団ボーイ隊コンドル班 森川 重則

ぼくは、一年間の反省は、ボーイスカウトにはいって、始めての野営は、青少年の家のアカシアの森だった。ぼくはテント

の中ではあまりねつかなくて、やはり家のほうがいいと思った。そして、黒松とうげの野営のときは、さいしょについたときに、いのししを打つじゅうをかかえて、トランシーバーをつかっていたので、ぼくは、そのときに上に上がるのがこわくなった。にもつをはこんでから、すぐにテントをつくるので、ぼくは、いやいやながらテントを作りました。ぼくは、テントを作るのは、てまがかかるといって、めしを食べてから、テントにもどって、むこうのテントの人と、うたがっせんをしてぼくたちは、こえががらがらになってしまった。ぼくは、野営はおもしろいと思いました。それで、そこをばしょから8キロぐらいあるいて、ぼくは、そのときとても苦しくて、みんなとすごくあいだをあけられてしまった。へとへとになって、もうすぐバスでいだというところで、もうみんなは、ついているからくやしかった。バスでいについて、ぼうしのないことがわかって、ぼくは、ものすごくあせってしまって、高くらシニアたいちょうがもっててくれたので、ほっとしました。あとはバスでそのまま家に帰りました。スカウトハウスにとまるときは、まずさいしょに、とんじるを作ってたべました。はらがいっばいになってぼくたちは、バレーボールであそんでいました。みんな、ほとんどの人がねるときに帰ってしまって、のこったのは、いわや君をのぞいて、小学6年生ばかりになってしまったので、とてもうれしかった。ねるときは、ぐっすりねむれたが、すこしふざけていたので、これからは、ちゃんとふざけないようにやりたいと思います。〔53年暮記〕

今年一年間の反省

浜松第7団ボーイ隊コンドル班 山田 貴史

ぼくは、浜松第7団ボーイ隊に上って初めての野営の時は、青少年の家のアカシアの森での野営だった。

テントの中でぼくたちは、プロレスなどをやってふざけていたが、時間がたつにつれて体が冷えてきた。それは、カブの時の舎営ではない、野営の寒さだ。だが家に帰ると、あたたかいいつもの生活が始まる。ぼくはいつも思うことがある。それはゆたかな生活の中で、友達とテントの中で楽しめるのがなんともいえないほど最高だ。そのたびに、ボーイスカウトに入っていてよかったなあと思う。

黒松とうげのキャンプも苦しかった。この野営は、水の大切さと火の大切さを理解するということだった。ついたとたん、りょうしさんが大きな、りょうじゅうを持ち、いのししをおっていた。りょうしさんの話しだと、りょうじゅうに射たれて、きずをおったいのししが逃げ回っている。ということだった。ぼくは「ドキッ」とした。そこにいたみんなもぼくと同じ思いだったと思う。

夕ごはんは、トンじる、おぞうに、つけもの、おにぎりだった。その時のおぞうには、あたたかくて心のしんまであたたまった。その時のメニューが生まれてからいまままでの中で一番おいしかった。一夜あけ帰る時「行きは車できたから、こんどは歩いていこう」と隊長が言った。ぼくは「えー、いやだなー」と言ってしまった。が、スカウトハウスまできてみると、自分が信じられなかった。それは、始めはいやだといっていたぼくが、ここまでこれたからだ。これからもボーイスカウトを誇りにもって、苦しい事ものりこえて行こうと思った。〔53年暮記〕

おく山ハイキング

浜松第11団カブ隊 中村吉宏

カブスカウトでおく山へバスでいきました。はじめのうちはたんけんだときいて、よろこんでいたけど実さいやってみたらそうでもなかったです。きいろいひもを目印にあるいていました。はじめのうちはよかったけど、林の中にはいると、かにさされたり、ころんだり、木で足をひっかけたりしていました。と中であつくなったので、ひとやすみして、またあるきだし、やっと林からぬけだしたあとロープ結びのれん習をやって、ごはんをたべました。うんどうしたあとのごはんは、とてもおいしかったです。そのあと、たからさがしをやりました。ぼくははじめから草のかげばかりさがしていました。すると、おぼさんがヒントをあたえてくれたので見つけることができました。そのあと、またすこしあるいて三じゅうのとうがたてられている所で、なかよしのわをやってからバスにのってかえりました。とてもいいけいけんをしたなあと思いました。



日本ジャンボリー

浜松第11団カブ隊2組 木野 裕

はじめバスで行って、あと歩いて行って、会場にはいったとき、はたがたくさんあったのでおどろきました。

ぼくたちは、浜松のテントの所へ地図を見たり、人に聞いたりして行っただけで、ついたら、「うっているものを見てくるよ」と言ったので行っただけで、ぼくは、リングとシールを買った。ジュースもそうだ。

門をでて、外国の黒人に「グッバイ」と言ったら「グッバイグッバイ」と顔をにやにやさせて言った。バスに乗って行って、道がこんでいたので、なかなか集まらなくて、だからドライブインで食べる物を買ってバスの中で食べると言ったのでたべて、元の所へついたのが11時15分ごろだったので、つかれていました。

日本ジャンボリー

浜松第11団カブ隊4組 丹羽勝也

今日は、4年に一度の日本ジャンボリー。とても大きい広い所に、たくさんの方が集まった。ぼくは、ジャンボリーの前の日に、オリンピックという所に泊って、その日は、ちょうど河口湖の湖上祭。とてもきれいな花火がたくさん打ちあげられた。次の日、バスで行く途中、風あなの中に入った。とても寒くてこおりがとけず、とてもきれいだった。そしてまたバスで2時間。ジャンボリーの会場についた。とてもむし暑いんだけど、がまんしていっしょうけんめい歩いた。とてもたくさんの方の

トだ。日本中のボーイスカウトがあつまったから、このぐらいはあるだろう。

今度のジャンボリーは、ぼくがボーイになってからなので、テントのくらしができるので、早くジャンボリーがこないかな、と思った。記念になったことは、外人さんたちとあく手や、お話ができたので、思い出になると思った。だれもまい子にならなくて、ぶじに帰れてよかった。

初めての田植

浜松第12団カブ隊 大塚浩師

ぼくは、カブ隊に入って3年目のクマスカウトです。

ぼくたちは、6月に田植をしました。苗は副長の家で作ってくれました。組集会で、すげがさと、てききゃんを作り、いしょうを着て苗をとり、初めて田の中に入りました。

田の中ではカエルが大合唱をしていました。田の中に入ると水が湯になっていた。

苗を植えるはじめると、苗はすぐたおれて水の上にかんでしまい、上手に植えることができませんでした。足をぬく時、田の中で、しりもちをついてしまいました。最初はうまく植えられなかったが、2時間ぐらいて田の中は緑でいっぱいでした。

ぼくたちの作ったお米は、クリスマスの日、もちつきをして収かくのお祝いします。



C S 隊 野 外 劇

カブスカウトに入って

浜松第12団カブ隊 笠原直樹

ぼくは、4月にカブスカウトに入りたいしました。入りたいは白鳥ホールでおこなわれるので、お母さんといっしょに行きました。たい長さん、リーダーさん、ボーイのお兄さんたちがたくさんならんでいました。一人ずつ名前をよぶとき、ぼくの名前が一番さいしょによんだのでびっくりしました。

ちかいの言葉をいうとき、たいきに手をかけたら、これでやっとカブスカウトに、にゅうたいできたぞと思ひ、「ぼくは、まじめにしっかりやります。カブたいのさだめを守ります。」と大きな声でいったとき、手からは、あせがながれてきて、むねはドキドキしていましたが、さいごまで言葉をまちがえずいえました。そのときぼくは心の中で、これからキャンプでもなんでも心をひきしめて、がんばりたいと心の中でちかった。夏の白くらのキャンプ、日本ジャンボリー、また、しばがた山でのこん虫さい集など、たのしいたくさんのごようじにさんかして、たのしかった。

早くボーイスカウトになって、日本ジャンボリーや、世界ジャンボリーにしゅっせきしたいです。

15周年記念競技

「野生の証明」

浜松第12団ボーイ隊野牛班 笠原典彦

野生の証明というきょうぎは、木に火をつけ水で早くけた方がかちというものです。グループは4つあって、野牛班、水星班、イーグル班、イナズマ班です。

スタートラインについた。そしてスタートの合図がした。ヨードン。みんなスタートした。ぼくはすぐ竹を半分にきるためにノコギリで切った。ほかの人は竹をわったり、まきをわったりしていた。いそいで切ろうと、力いっぱいノコギリをひいた。足をだいにしできると、みごとにきれた。そしてノコギリをしまい急いで帰った。そして吉富君にタッチして場所にもどった。



吉富君は、ぼくの切った竹をわっていた。ぼくは『負ける』と思っていた。吉富君はすぐに竹をわり、しゅういん君にタッチして、しゅういん君は、まきをわった。だいたい4つぐらいにわり、いそいでもどっていた。そのあとは松本次長が竹やまきをもって、うまくならべ、松の葉を入れた。

あとは、火をつけるだけと、班長が火をつけた。なかなかつかないの、ぼくたちが風上にまわり風がこないようにした。班長たちは、ハットであおり火をおこした。

みごと火はついた。そしてぼうぼうともえた。そしてロープがもえて、きれ上から水がパシャーとおち火はジューと音をたててきえました。そして急いで場所にもどった。

なんと野牛班がいちばん早かった。けがもなく野牛班が一位になった。とてもうれしくてたまらなかった。

15周年きねん、とても楽しい思い出になり、心の中のにこりいろいろな大工道具のつかい方もよくわかり、とてもよかったです。

「何か」を思い出させてくれた

ボーイスカウト活動

浜松第12団ボーイ隊イーグル班長 河合宏紀

私達第12団ボーイ隊の隊長・小粥隊長は、隊集会の終りなどにスカウトにうま飛び、ハンカチ落としなどのレクリエーションをさせたりする。

隊長は言う。「レクリエーションを通して、スカウト同志の友情を深めることができる。」と。

隊長に教えてもらう遊びの、どれをとっても、売買した物を使ってではなく、その場にあるものだけで、くふうして使っ

ている。その遊びをしていると、私達は、日ごろの時間に追われて生活している中で、忘れかけていた「何か」を見いだすことができる。

むかしの子は、皆こういう遊びをした、と隊長はいう。とすれば、むかしの子はみんな、その「何か」を心にいだいて生活していたということになる。

私は今もって、その「何か」を言葉で表わすことができない。が、その忘れかけていた「何か」を私の心に再び築き上げてくれたボーイスカウト活動に感謝すると共に、これからの活動の中で、必ずその「何か」を心の中であらめると信じている。

10周年記念とクリスマス会

浜松第19団カブ第1隊6組 高山智博

12月17日にぼくたちの団では、結成から10年めのおいおいをしました。ぼくは9才なので19団の方が1つ年上になります。ぼくが、はいはいをしたり、立ってよちよち歩いたりして、だんだん大きくなったように、19団も初めは27人だったのが、だんだん大きくなり、いろいろな活動ができるようになりました。記念のペナントをもらって、ぼくもがんばるぞと思いました。

記念式が終ると、クリスマス会をやりました。各組ごとに、工夫した歌やげきをしたり、ゲームをしました。おかさなたちは、おもちをついたり、おでんを作ったりして、パザーをやりました。中でいちばんおもしろかったのは、大漁コーナーです。つりあげたふくろをあけると、いろいろなしなものが出るので大せいきょうでした。はらいっぱいたべて、思うぞんぶん楽しみました。



10周年をむかえて

浜松第19団カブ第2隊5組 土手一浩

19団ができて、もう10年たったそうだ。それを祝い、今日10周年記念の式典とクリスマス会を富塚幼稚園で行なった。去年とちがって外でやった。

まず始めは記念式だ。19団を産んでくださった人たちが、ぼくたちを囲むようにたくさんいらしゃった。その人たちのおっしゃる事は、ぼくたちのむねをジーンとさせるようなものばかりだ。たとえば、宮沢さんの「金魚」を救うという話だ。

宮沢さんは、「カブスカウトはやさしい心を持たなくてはいけない」という事を言いたかったのだろう。

式がおわって、劇などがあった。ぼくの組は「かつら」をかぶったりして、とても愉快にできた。

10年たった19団。反省する事や楽しい事が、いっぱいあったクリスマス会だった。

ボーイスカウトにはいって

浜松第19団ボーイ隊 日山 浩彰

ぼくはボーイスカウトに入る前「ちかいとおきて」をいっしょけんめいおぼえました。そして入隊式の時は大きな声でいうつもりでしたが、当日は少し小さかったなと思いました。でもぼくは、このちかいをまもっていきたいと思いました。

ぼくはボーイスカウトに入ってキャンプ、ジャンボリー見学、クリスマス会などをやりました。この中で一番よかったのはキャンプでした。ぼくはキャンプが初めてなので1級、2級の人たちの手伝いをやりました。おさらなども全部ぼくたちが洗いたいへんでした。

でもテントのみぞほりなども少しわかってきました。だから2級になったら初級におしえてあげたいと思います。

1月にはスキーがあるので、がんばりたいと思います。



ボーイスカウトに入団して

浜松第19団ボーイ隊 山崎 暁史

ボーイに入って、1年になる。この間だけでも、もうたくさんの思い出が残された。

キャンプは、先ばいといっしょにやり、苦しいことがいろいろある。しかし、中には楽しいこともよくあった。

カブでは出来ないようなことを、ボーイでは出来る。そのでん、ボーイにはいってよかった。そんな気がする。また、隊長が、今まで知らなかったことも教えてくれる。そういった良い所がある。

今までの、わがままな気持ちも、入団して以来うすれてきた。

これからまた、上級へと、どんどん上がっていくことを楽しみに、もっと続けて、今までのわがまをやめ、いろいろならってみようと思う。

新年に思うこと

浜松第25団C S隊うさぎ 高やなぎやすゆき

ぼくは、去年カブスカウトに入ってよかったなあと思います。山登りも出来たし、キャンプも出来たし、あの時のカレーライスうまかったなあ。5はいもたべちゃった。来年も楽しいことが、うんとあるといいなと思います。去年はカブたいのさだめは、あまりまもれませんでした。「じぶんのことは自分でします」も守れなかったし、ぼくは「おさないものを、いたわりま

す」というさだめで、弟や、いもうとの、おさないものを、いじめすぎたんじゃないかと、はんせいしています。今年はおさないものをいたわりきちんとしたカブスカウトになりたいです。

新年に思う事

浜松第25団カブ隊しか 松尾 圭介

ぼくは今年、ふざけないようにしたいと思います。「バクバクバク」といわれて集まる時や、ならぶ時、ならんでからなど去年はのろかったり、だらだらしていました。だけど今年はさっと集まって、すぐにせいれつして気をつけをすることができるようになりたいと思います。気をつけをしてから休めの合図や気をつけの合図などを見のがさないようにしたいです。

「静かにしろ」と言われたら、すぐ静かにする。

「やってはいけない」と言われたらすぐやめる。と言うように一つ一つのけじめをしっかりとつけたいと思います。そのほか、カブが終って家に帰ってから反省をしてみるなどの事もやりたいです。ふざけないことが、ぼくの第一に思うことです。



ふじとざん

浜松第24団カブ隊3組 大城 宏康

ぼくは、8月5日にカブでとても楽しみにしていた、ふじ山へのぼりました。ふじ山で、一番くるしかつた所は7合目から8合目でした。足のかかたが、ジンジンいたく、もう、いきがきれそうでした。7合目と8合目の間に、万年雪がありました。その万年雪は、とけかかっている、もうすぐ水になってしまうようでした。とちゅうで、ふじ山へ、しごとをしに行く人に出会いました。その人は「ガンバレヨ」といつてくれたので、だんだん力がわいてきました。あたりを見回すと、もう、ちよう上へつころでした。あの「おじさん」早いな、と思った。だが、こっちの方がわかいんだからまけないぞ、と思いつながら歩きました。上に行くにつれて、だんだんさむくなってきました。ちよう上へついた時は、さむ気がしてきて、夏だというのは、はな水が鼻の下まで出かかっていた。とてもさむく、体が氷りつきそうでした。店に入ると、体をまるめてみんながくるのをまっています。その店で、あまぎけをもらった。そのあまぎけは、とてもあまく、体がジーンとあたたまった。帰りは太郎坊から、す走りへ出て帰った。す走りは、くつに砂が入って、とても足がいたかった。とちゅう、夜になってしまいとても心細かった。夜の九時半ごろにバスの所についた時は、ほっとしました。今度は家ぞくでちよう上のかんそく所まで行ってみたいと思います。

日本ジャンボリーを見て

浜松第24回カブ隊3組 黒柳夏樹

ぼくは、日本ジャンボリーを見に行くからと用意をしていた時ジャンボリーって、どこでやるかしらなかつたので、おかあさんにきいたら会場と言ったので体育かんみたいのでっかくて屋根のあるものだと思います。でも、ついてみてちがうとわかりました。少しがっかりしました。夕がただだったので、まだジャンボリーは、はじまっていませんでした。だんだん日がくられて、とうとう夜になってしまったのでやるのかなと思いました。でも、ジャンボリーの開会式は夜にはじまりました。さあ見るぞ、と心の中で思いました。はじめにいろいろな国の人たちが入ってきました。その入りが、とてもきれいでした。ぼくたちでは、まねもできないくらいでした。入場がおわって、いろいろなはたが日本のはたの、まわりであって、とてもすばらしかったです。その時、たってくださいと、ほうそうが入った。すると歌の音楽がながれてきました。

その時の気もちは、なんともいえない気もちでした。次にはじめの言葉がはじまった。けれども、いみがよくわかりませんでした。帰る時、会場の方を見たら、すごい人でびっくりしました。日本ジャンボリーはとても楽しくて、びっくりして、おもしろかったです。また、こんど見る時は、ボーイスカウトになっている時です。ボーイスカウトでみる時と、カブスカウトでみた時と、どうかわっていてすてきになっているか見たいと思います。



スカウト活動3年間を通して

浜松第24回ボーイ隊 高田英治

もうすぐ僕はスカウト活動を始めてから3年になる。6年生の頃は、野営に行っても、水くみと、まきわりばかりで、他の事はやらせてもらえなかった。しかし、今は班長だ。野営に行けば好きな事も出来る。だが、その行動に重い責任がかかってくる。ボーイとしてスカウト活動も、残りあと3カ月、ぼくは班員の為に何をやってやったか、ということをよく考える。残りの3カ月、僕は班員の為に自分の知識や技術を全て教えて、悔いなくシニアに上進したいと思います。

B・S生活をふりかえって

浜松第24回ボーイ隊 野島良之

今までのBS生活をふりかえってみると、楽しかった事、つらかった事が、次つぎと頭の中にかんてくる。私は、浜松24回の出来た年から、BSに入った。そして、やはり、みな初めての人ばかりで、いろいろ失敗ばかりあったけれども、今ではもう3年目である。もう、ボーイともお別れと思うと、少しさびしいような気もする。3年間で共通している事は、時間にルーズであったと云う事である。集合するにも遅く、解散時刻もまちまちである。そして欠席者が必ずいたと云う事です。日曜日でも部活があって、どうしても全員参加にはならない。来年度への意見として、①集合時刻をしっかり守る、②欠席理由ははっきりさせる、③班集会はこまめに開く、という事を次の班長や次長は守らせると良いでしょう。

7 N J のこと

引佐第2回カブ隊2組 内山竹士

第7回の日本ジャンボリーが8月に開かれると知って、ぼくは参加したいなーと思いました。でもCSは見学するだけと聞いてがっかりしました。ぼくの圭三兄さんは、BSとして参加することになりました。お父さん、お母さんといっしょになって準備をしているのを見ていたらうらやましく、にくらしくなりました。

いよいよ8月、見学に出発です。隊長、副長、BS、CSの友達といっしょにバスに乗る時は、わくわくしていました。その夜は日本ランドに泊りました。いつもなら、それだけでもうれしいのに明日はいよいよ7NJだと思えば、それほどでもありませんでした。

ジャンボリー会場はとても広く黒い土の中にいろんな色のテントがたくさんあります。スカウトがいっぱいいます。その中で寝屋川のCSと友達になりました。

1年をふりかえって

引佐第2回カブ隊3組 池田吉見

ぼくは、この1年をふりかえると、いろいろな思い出がある。元旦の朝、5時半まだ暗く、ねむくて寒い時、BS、CSで三嶽山に初日を拝みに行ったこと。奥山でのキャンプ、そして日本ジャンボリーに見学に行って、大阪府門真市のカブ隊に友達が出来て、今も文通していること。町の社会教育発表会などにカブ隊作「もたろう」の人形げきを上演して喜んでもらったこと。又、宇宙時代のテーマの時には、3組は「月の未来」を紙しばいに。そして、祭りのテーマにした時は「天女とほうろく売り」の寸げきを発表。組々が出し物を考えてDM、CSといろいろな場所に集まり、作って練習したことが楽しくうかんできます。「緑の羽根」「草取り」「大掃じ」の奉仕活動もがんばりました。ぼくはこの1年間で「しか」の進歩章をもらいました。来年は「くま」になります。金矢章、銀矢章を取るために、もっともつとがんばりたいと思います。

この1年を振り返って

引佐第2団ボーイ隊 内山 圭三

我が隊はまず、1月1日からボーイスカウト活動が始まります。朝早く起きて、初日の出を新たなる気持ちで拝みます。次にある行事は、我が引佐2団の発隊式です。この時だけは特別に緊張します。それからは次々と隊集会がおこなわれ、その中の一つがナイトハイキングです。この行事は、毎年毎年おこなわれる、我が隊の自慢の一つです。

次々といろいろな行事がおこなわれ、今年もおしせまる時におこなうクリスマス集会は、今まであった、いやなことを忘れてしまうほど楽しいことばかりです。でも、この1年を振り返って一番の思い出は「第7回日本ジャンボリー」でした。今でもあの時、あの雨の中、みんなで協力して立てたテント、今でもあの時のことが頭の中に浮んでくるようです。

来年こそはもっとよい年、そしてボーイスカウト生活にしたいたいと思っています。これからの引佐2団のため、そして発展のためにイヤサカ!!。

今年一年と来年への抱負

引佐第2団ボーイ隊 影山 勝利

今年1年間を振り返って見て僕にとって、とても良い年となりました。そのうちの一つは班長として1年間活動したということです。班員の中には言うことを聞かない人もいました。もう一つは日本ジャンボリーに参加したこと。このジャンボリーでは、ひどい風と雨にやられ大変でした。この二つの仕事と同時に、初日の出を拝むとか発隊記念式典とか、クリスマス集会などいろいろな行事もありました。これをきっかけとして僕は1回も2回も大きくなったような気がします。

来年の抱負として残された3カ月のB・S活動をゆういぎに過ごしたいと思います。初日の出を拝む会では、何を頼もうか迷っています。B・S活動が終わっても引き続きS・S活動へとこまを進めスカウト活動を続けたいと思います。みなさんも1年を反省し来年に向けてがんばって下さい。

1年をふりかえって

浜松第24団SS隊 宮分 和浩

僕は、今年でスカウト活動を初めて3年になります。その3年の中で、この1年間はとても大きく飛躍した年だったと思います。

今年の我が隊の大きな活動といえば3月末に行われたアドベンチャーキャンプへの参加・7月のシニア隊結成式・8月の遠征旅行・11月のサイクリングなどです。

3月末のアドベンチャーキャンプでは雪中キャンプを経験し、大勢の人々に見守られてシニア隊結成式を行いました。また8月遠征旅行では未知の土地を歩き人々の親切にふれました。

僕はこのような経験をつんでいくうちにスカウトとして自信をもち、充実したキャンプ生活を送れるようになるのだと思います。そしてこのようなことを通して得たものは、近い将来、きっと役立つことだろうと思います。これからも、スカウトの

仲間と協力し、良きスカウトになるために、また良き社会人になるために全力を尽くしてがんばろうと思います。

10周年をむかえて

浜松第19団SS隊 柴田 智宏

月日というものは早いもので、浜松19団も10周年をむかえました。この間、第13回世界ジャンボリーを始め、第5回、第6回、第7回日本ジャンボリーに参加してきました。ボーイスカウトの花の祭典であるジャンボリーにも顔を出してきました。この4つの大会でわれわれは、いろいろな経験をつみ、さらに技術を習得し、体を鍛練してきました。そんな中で、苦しみや、疲れを仲間と協力し、それを克服してきたのです。今後これらの経験を生かして、さらに、多くの知識と技術を習得していきたいと思う。

今年をふりかえって

浜松第4団シニア隊 津谷 拓夫

1978年はいまでもなく第7回日本ジャンボリーに沸いた年だった。すべてのことが感動的だったあの1週間は、ボーイスカウト、そして中学生最後の夏休みの思い出としてキラキラと燃える夏の太陽に焼き付けられたように今もあざやかによみがえってくる。そして、多くの人々の心のつながりを持つことができたり、暴風雨の中での設営や外国のスカウトとの交歓など今までになかったよい体験をたくさんすることができて、とてもうれしい。その中でも、特によかったことは、7日間のキャンプ生活を通して、友人との友情もいっそう深めることができたことだ。

これらの体験はこれからの人生のうえで、かならずプラスになることだと思う。そう考えると、自分はとても幸せだと思う。しかし、私たちがパイオニア賞をとることができたり、また安全で快適なキャンプをすることができたのはリーダーのみなさんや、その他、各方面の大勢の方々のおかげなので、その感謝の気持ちも忘れてはならないと思う。

とにかく、1978年はぼくにとって最高によい年だった。

ボーイスカウトに思う

浜松第12団SS隊隊長 小倉 浜孫

私の入隊動機は、非常にかんたんである。友人に進められてなにもわからずに入隊したのが本音である。その友人は、もうボーイスカウトからはなれてしまっている。ちかいの式、上進式、キャンプ、ジャンボリー……。目をとじれば走馬灯のように出てくる。僕もいつのまにかリーダーをやっている。他の人は「なんでリーダーなんかやっているのか、どれだけメリットがあるのか」などと言うが僕は「何にもない」と答える。でも僕の心の中では本当にボーイスカウト運動をしていてよかったなあと思っている。(言葉には言い表わせないけど) もう一つはひとつでもいいからボーイスカウトの輪を広げたい。

第2回ボーイスカウト写真コンテスト入賞作品

＝成人の部＝ 入 選



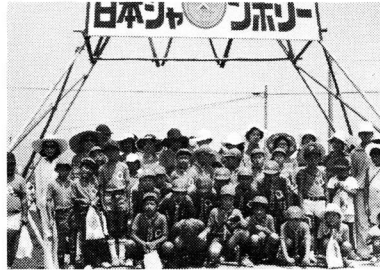
走れ、スカウト達 伊熊有祐 (浜松第18団)



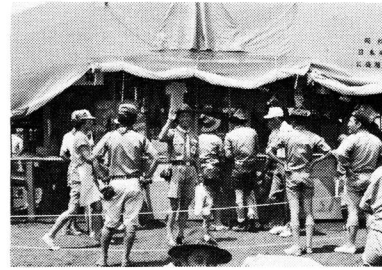
富士登山 和田 鼎 (浜松第24団)



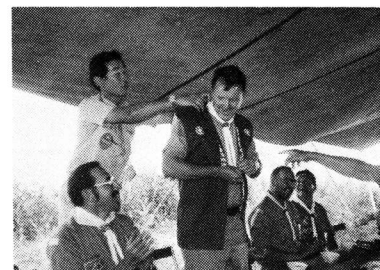
水くみ 細井信雄 (浜松第24団)



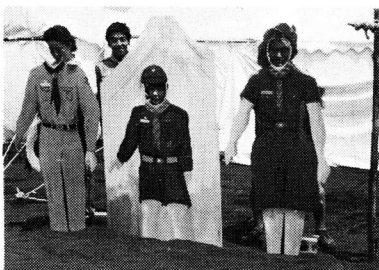
日本ジャンボリー 藤田禧枝 (浜松第7団)



ガンバレ!ガンバレ 新見信明 (浜松第14団)



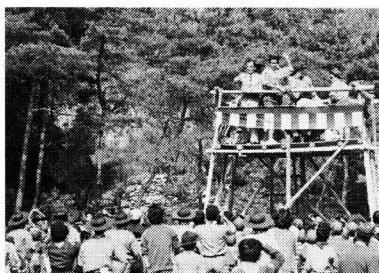
レセプション 三輪悦爾 (浜松第12団)



ハイ・チーズ 永田通児 (浜松第7団)



富士登山 小沢定子 (浜松第24団)



もち投げ 高須岩夫 (引佐第2団)

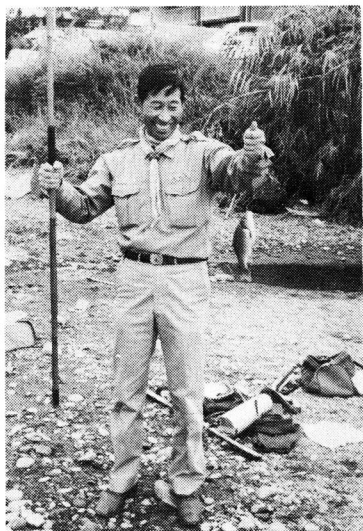


親子 中村 勝 (可美第1団)

第2回ボーイスカウト写真コンテスト入賞作品

＝スカウトの部＝

優
秀
賞



大 公 望

藤 田 浩 志 (浜松第15団 S S)

入
選



インディアンダンス

福 井 聡 (浜松第15団 S S)

地区のうごき

- 10月2日 スカウト浜松編集会議 (法林寺)
- 3日 地区ソフトボール大会打合せ (法林寺)
- 5日 中央小地区健康安全委員会 (法林寺)
- 13日 中央小地区運動会反省会 (法林寺)
- 18日 中央小地区リーダー会 (法林寺)
- 21～22日 第21回 J O T A (中田島海岸)
- 29日 地区ソフトボール大会 (中 止)
- 11月3日 浜松第12団15周年 (青少年の家)
- 4～5日 野営行事委員研修野営 (芝形野営場)
- 12日 県大会西部会場 (浜北森林公園)
- 15日 中央小地区リーダー会 (法林寺)
- 18～19日 中央小地区救急法講習会 (青少年の家)
- 24日 地区 S S リーダー会 (市川事務所)
- 12月2日 中央小地区忘年会 (法林寺)
- 10日 中央小地区歳末助け合い運動
- 16日 地区委員会、野営行事委員会 (法林寺)
- 17日 地区 S S シニアパーティー (八幡閣)
(G S 合同)
- 19日 地区訓練チーム会議 (法林寺)
- 20日 中央小地区リーダー会 (法林寺)
- 54年元旦 新年選拜式 (中田島海岸)

あ と が き

◎ 謹んで新年の弥栄を申し上げます。

元日、中田島海岸の、日の出選拜式に集う浜松地区スカウト、リーダー、団委員等400余名、今年も元気にスカウト活動の出来るよい年であることを祈念します。

◎ 昭和54年は世界ジャンボリーの年です。開催国イランの政情不安のため日本連盟では参加を見合せるとのことです。まことに残念でなりません。

◎ 第2回ボーイスカウト写真コンテスト入賞作品の発表を致します。先回同様よい作品が多数あり審査にあたった高倉隊長も最後まで頭を痛めました。ただスカウトの部への応募点数が非常に少なく、やむなく入賞点数を発表通りしほりました。ご了承下さい。

◎ 本号は西部、引佐小地区担当にて編集、写真コンテスト発表等で特別増頁号としました。次号第75号は南部小地区担当にてお送りする予定です。

(S・Y記)

発 行 所 第74号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
 浜松市利町70-4 児童会館内
 編集発行責任者 山中 将 司
 印刷所 (株)朝日堂印刷所
 昭和54年1月25日発行